

東邦HD「3D社の主張に関する当社見解（2025年6月4日）」 に対する当社の見解

2025年6月6日



経営課題の先送りと隠蔽体質の再露呈	3
取締役の適格性に対する実質的反論の欠如	10
免責事項	14

経営課題の先送りと隠蔽体質の再露呈

東邦HDが掲げる経営目標は、いずれも低水準にとどまっており、実質的には経営課題を先送りする姿勢が窺われます

当社の主張に関する東邦HD見解 (2025年6月4日)



※赤色網掛けは当社による

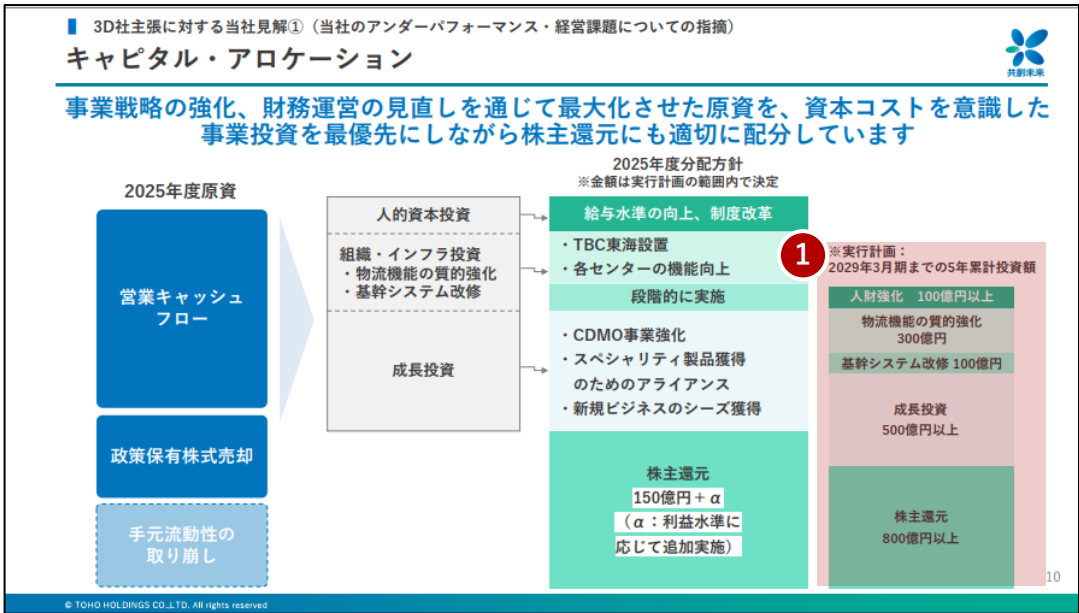
- ①：29年3月期に連結ベースでROE8%以上を目指す
- ②：政策保有株式を純資産比で29年3月期に10%未満まで削減

当社の見解

- ①の経営目標は、上場企業として最低限の基準に過ぎず、今後の改善を一切伴わない低水準
 - ROE8%は、上場企業として達成が最低限求められる水準
 - 東邦HDは既に24年3月期に当該目標を達成済みで実質的な現状維持
- ②の経営目標は、政策保有株式の縮減ペースを落とすことを意味する
 - 直近4年間では、政策株純資産比率を12.8%pt縮小
 - 今後4年間の目標は、6.2%ptの縮小で過去実績を大幅に下回る

東邦HDが掲げるキャピタルアロケーション方針には、投資対効果に関する言及が無く、資本規律の欠如が疑われます

当社の主張に関する東邦HD見解 (2025年6月4日)



※赤色網掛けは当社による

①: 25年3月期から29年3月期までの投資計画

- 株主還元: 800億円以上
- 成長投資: 500億円以上
- 物流機能の質的強化: 300億円
- 人財強化: 100億円以上
- 基幹システム改修: 100億円

当社の見解

- 東邦HDは、①の「5年累計投資額」の内訳が存在することをもってキャピタル・アロケーションの適切性を主張
- 他方、投資対効果に関する言及は無く、資本規律の欠如を裏付けている
 - 推定ROICなど各投資の投資対効果に関する説明や目標値の設定が無い
- 社外取締役は、これらの定量的な投資対効果を把握しておらず、取締役会でもそのような議論が行われた記憶は無いと言及

(3D) 御社の投資におけるハードルレートは何%で設定されていますか。
(加茂谷) そこはすぐに即答できるようなもの持ってない。
(3D) 御社の中に何かそういう共通された水準はあるのですか。
(加茂谷) それは議論したことない。

2025年2月26日 加茂谷社外取締役インタビュー議事録

東邦HDは、当社が指摘した「日大事件」に関するコンプライアンス上の問題に反論を試みておりますが、実質的な反論にはなっておりません

当社の主張に関する東邦HD見解 (2025年6月4日)

■ 3D社主張に対する当社見解②（当社のガバナンス体制の不備についての指摘）

「日大事件」と指摘される事案について

当社が違法又は不正な取引を行ったものではなく、他に類似取引もありません

改善すべき点は真摯に受け止め、ガバナンス体制の強化に取り組んでいます

■ 日大事件への当社の関与について

当社が日本大学関連病院との取引に関し、2017年に指摘のある会社との間でコンサルティング契約を締結したのは事実です。もっとも、これは日本大学関連病院におけるSPD事業や医薬品取引の拡大、また病院やその関係先との取引に関する有用な情報の提供を受けることという事業上の正当な目的により締結したものであり、**① 契約締結時点において、同社が実態のない会社であるとの認識は、当社には一切ありませんでした。**

当社は、2020年11月頃以降、日本大学に係る一連の事案に関する検察の捜査に協力すると、**② 社内調査や弁護士の見解を踏まえて当社自体が違法又は不正な取引を行ったものではないことを確認しました。**また、関係者へのヒアリング、稟議書類の確認等の調査に**③ 当社に他に類似取引がないことを確認しております。**

一方、契約締結時に取引先の十分な調査が行えていなかったことなど、当社のガバナンスに改善すべき点があったことを真摯に受け止め、**これまで様々なガバナンス体制の改善・強化のための施策を実施してきております。**2024年8月に設置したガバナンス強化特別委員会もその施策の一つになります。

※ 3D社プレゼン資料においては、日大事件が直近の2024年に発生したかのような記載がありますが、当社がコンサルティング契約を締結したのは2017年であり、当社は検察の捜査過程で問題を認識し、より早い段階から問題への対処や改善・強化の施策を講じてきております。

12

© TOHO HOLDINGS CO.,LTD. All rights reserved.

※赤色網掛けは当社による

- **①**：契約締結時点で、同社が実態のない会社であるとの認識が、一切なかった
- **②**：社内調査や弁護士の見解を踏まえて、当社自体が違法または不正な取引を行ったものではない
- **③**：内部調査によって、当社には他に類似取引がないことを確認

当社の見解

- **①**の主張は、訴訟記録で明らかになった不適切な取引についての釈明となっていない >>**次ページ 詳細①参照**
- **②**の主張は、当社の主張に対する反論になっていないばかりか、東邦HDがガバナンスの本質を理解していないことを露呈
 - 当社が問題視しているのは、行為の違法性ではなく、企業価値向上に資する実効性のあるガバナンスの欠如
 - 違法でないから問題無いとする姿勢は、ガバナンスに対する理解の欠如を露呈
- **③**で主張する内部調査の実施だけでは、他に類似取引が無いと判断することは困難
 - 過去三度の談合事件でも同様の主張をし、結果として同様の不祥事を繰り返している
 - 社内調査の内容（体制・スコープ・方法論・報告内容）が開示されておらず、当該主張は透明性・信用性を欠く

出典: 東邦HD「3D社の主張に関する当社見解（2025年6月4日）」

6

詳細①：東邦HDは、訴訟記録で明らかになった不適切な取引について何ら釈明ができていません

現時点で判明している事実

藪本氏は日大の資金を不正流用した人物

- 藪本氏は、日大に帰属すべき資金を不正に流用した背任罪で逮捕・起訴された人物
- また、日大が被った損害に対する損害賠償請求事件も係属している人物

「日大関連病院に還付すべき資金」を、無関係な藪本氏への報酬として支払っており不適切

- 藪本氏に支払われたコンサルティング料の支払原資は、日大関連病院に還付されるべき医薬品の値引き分のため、支払原資として不適当
- また、医療法人の代表である藪本氏は、日大とは直接関係の無い人物であるため、支払先としても不適当
- 同業他社のアルフレッサ株式会社は同様の取引を打診されたが、拒絶

東邦HDとインテリジェンス社¹の契約書は、藪本氏への支払いを形式上適切に見せるために交わされたもの

“その後、私（藪本）は、G氏に対して、東邦薬品から追加値引き1パーセント分をIntelligence Consultingに振り込んでもらうに当たり、その振り込みが正当な振込に見えるように、コンサルティング契約書などを作成するように指示しました”
“Intelligence Consultingの資本金は1000万円で、私が全て出資したものであり、Intelligence Consultingの株式は、設立時から現在に至るまで、私が全て保有しております”

日大事件に関する民事訴訟の訴訟記録 藪本氏の供述調書

東邦HDの主張

- 東邦HDは、反論資料において、インテリジェンス社¹とのコンサルティング契約が事実であることを認めつつ、同社が実態のない会社であるとの認識が一切なかったと述べるのみ

当社の見解

- 「本来日大関連病院に支払うべき資金」を原資として、日大と無関係な人物に「表面的に妥当に見えるよう」コンサルティング契約を締結して支払ったという、その一連の不適切性について、何ら釈明ができていない

出典: 日大事件に関する民事訴訟の訴訟記録; 東邦HD「3D社の主張に関する当社見解（2025年6月4日）」
注: [1]正式名称は株式会社Intelligence Consulting; 一部個人名については、5月27日付け当社プレゼンテーション資料「東邦ホールディングスの企業価値最大化に向けて」の表記に従い匿名化しております

東邦HDは、当社の「隠蔽体質」の指摘を事実誤認としていますが、その主張は不十分であり、むしろ隠蔽体質を自ら認めるような内容となっております

当社の主張に関する東邦HD見解 (2025年6月4日)

当社の見解

■ 3D社主張に対する当社見解②（当社のガバナンス体制の不備についての指摘）

「隠蔽体質」との指摘について



3D社の隠蔽体質であるとの主張は憶測に基づくものであり、当社はガバナンス上の課題の改善に真摯に取り組んでおり、隠蔽体質ではありません

- 3D社プレゼン資料には、当社がガバナンス上の問題から目を背けている旨の記載がありますが、**全くの事実誤認**です。当社は、本スライドに記載の通り、独占禁止法違反事案や日大事件以降、様々な施策を講じることによりガバナンスの強化に取り組んできています（詳細はスライド14頁～16頁参照）。
- 当社が日本大学関連病院に関する取引について自主的に公表していること（**①**）は、**当社自体に法令違反や不正な意図がないことに加え、ガバナンス上の課題についても改善・強化策を適切に講じている**ことを示すことで当社自体が違法・不正な取引を行ったと誤解や憶測を生じさせ、不必要に当社の企業価値を毀損するおそれがあると判断したためです。当社に隠蔽の意図は全くなく、当社はマスコミのインタビューに応じ、契約締結当時の状況や改善すべき点などについて詳細な説明をしています（医薬経済ONLINE 2024年6月20日 一問一答）。
- 3D社プレゼン資料における当社が隠蔽体質であるとの記載の多くは、「疑義がある」など憶測にすぎないものであり、また、当社がこれまで真摯に対応を重ねてきた3D社との対話の内容を曲解又は無視するものであり、誠に遺憾です。
- 3D社は第三者委員会の設置を主張していますが、当社は既に適切な調査を行っている上、ガバナンスの改善・強化のための様々な施策を実施してきていること（**③**）**第三者委員会の設置の必要はないと判断しております**。かかる施策の実施等により、**事案が発生した2017年当時と比較して当社の内部体制は大きく変わっており、ガバナンス体制も改善・強化されているため、類似の取引が発生するおそれはない**と考えております。なお、ガバナンス強化特別委員会は、当社のガバナンス体制をより一層強化するために設置したものであり、特定の事案を調査するために設置したのではなく、ガバナンス強化特別委員会に第三者委員会の実質を求めること自体そもそも間違っています。

13

© TOHO HOLDINGS CO.,LTD. All rights reserved.

※赤色網掛けは当社による

- ①：開示により、当社自体が違法・不正な取引を行ったと誤解や憶測を生じさせ、当社の企業価値を毀損するおそれがあると判断
- ②：マスコミのインタビューに応じ、詳細な説明を実施
- ③：「ガバナンス強化特別委員会は、特定事案の調査はしない」と明言し、第三者委員会の設置は不要と判断

- ①のように考えるならば、むしろ、透明性のある開示をして納得してもらえるまで説明を尽くすべき。この主張こそ、まさに東邦HDの隠蔽体質の存在を示すもの
- ②の主張をもって、隠蔽の意図は無いとするのは無理がある
 - マスコミのインタビューに応じたとはいえ、それは当該報道機関の取材に対して受動的に回答したに過ぎず、十分な情報開示とは言えない
 - 回答内容には訴訟記録との重大な齟齬も見られる
- ③のように、第三者委員会設置を頑なに拒む姿勢は理解に苦しむ
 - 第三者委員会の設置の拒絶は、原因の究明・責任の追求・将来の信頼回復といった基本的な対応をあえて拒絶することを意味する
 - 類似案件の存在も強く疑われる以上、ステークホルダーからの信頼を回復するために経営陣から完全に独立した立場からの網羅的な調査を行う必要があるにもかかわらず、なぜここまで頑なに第三者による独立調査を拒むのか、当社は理解に苦しむ
- 東邦HDが第三者委員会の設置を拒む理由は、ガバナンス強化特別委員会委員長の発言（次頁）に集約されている

東邦HDが第三者委員会の設置を拒む理由は、ガバナンス強化特別委員会委員長の発言に集約されています

“特捜部で事件がなくなったら、薬品業界に手突込めば何か引っかかる、そういう社会ですよこの業界は。（中略）

そういうところにきて、コンプライアンスがどうのこうのというのは、八百屋に来て刺身くれっていうのと同じだよね”

2025年2月25日 ガバナンス強化特別委員会委員長インタビュー議事録



このような意識があるからこそ、第三者による独立した調査を拒み続けているのだと考えます

取締役の適格性に対する実質的反論の欠如

東邦HDは、当社が問題提起した枝廣弘巳氏の取締役としての適格性について十分に反論できておらず、むしろ不祥事への関与を実質的に認めるような主張を行っております

当社の主張に関する東邦HD見解 (2025年6月4日)

■ 3D社主張に対する当社見解③ (定時株主総会における議決権行使 (反対推奨) について)

当社提案候補者 (枝廣 弘巳) の取締役としての適格性

2024年6月のCEO就任時から主導してきた各施策の継続的な実行に不可欠であり
当社固有の経営課題に対処するうえでもCEOとCFOを経験した同氏が最良です



代表取締役CEO兼CFO
えだひろ ひろみ
枝廣 弘巳

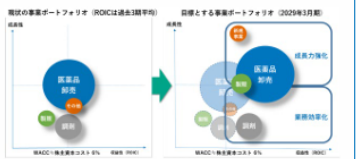
枝廣弘巳氏は、企業経営者としての豊富な知見・経験を有し、**① 中期経営計画で掲げた施策の推進**及び目標の達成に向け、強いリーダーシップを発揮し、当社グループの経営を牽引しております。今後もグループ経営全般を牽引する立場として、当社グループの持続的な成長と企業価値の向上の実現に貢献できるものと判断したため、引き続き取締役として選任をお願いするものであります。

枝廣の下で働く取り組み

② 不祥事対応及び再発防止策の徹底
これまでの不祥事の発生経緯を把握しているからこそ、当社の課題や問題を誰よりも熟知しており、その経験を活かし再発防止策の策定・実行を主導していくうえで、適任であると考えています。

社員モチベーション向上によるお客様及び取引先様との強固な関係性の維持・発展
事業活動の基盤となる人材育成やガバナンスの強化といった社内の取り組みをより一層推進していくとともに、環境負荷の低減や人権の尊重といった取り組みにも注力することで、お客様や取引先様との関係性の深掘り、ひいては当社企業価値向上に繋がる施策を推進することが可能です。

＜事業ポートフォリオの方向性＞



※赤色網掛けは当社による

- **①**：枝廣氏は中期経営計画で掲げた施策の推進と目標の達成に向けて、強いリーダーシップを発揮している
- **②**：枝廣氏はこれまでの不祥事の発生経緯を把握しており、その経験を活かし再発防止策の策定・実行を主導できる

当社の見解

- **①**の主張は、当該計画自体が不十分である以上、枝廣氏の適格性を裏付けるものとは言えない
 - 経営目標は、既に達成済みのROE水準を再設定し、政策保有株式の削減ペースを大幅に鈍化させるもの
 - 投資計画は、ROICなどの投資対効果に関する議論を欠くもの
- **②**の主張は、むしろ、当社が指摘した、枝廣氏が過去の不祥事に関与していることを認めていると受け取れるもの
 - 枝廣氏自身の不祥事への関与について何ら否定をしていない
 - それどころか、「発生経緯を把握しているからこそ」として、過去の不祥事について、取締役として黙認していたとの疑いを生じさせ、不祥事に関わっていたことを自ら認めているとも受け取れる

加茂谷佳明氏への当社の指摘に対する東邦HDの反論は、具体性や真実性の裏付けに欠けた反論や推測に基づいた反論にとどまっており、当社の主張を覆すには至っておりません

当社の主張に関する東邦HD見解 (2025年6月4日)

■ 3D社主張に対する当社見解③（定時株主総会における議決権行使（反対推奨）について）

加茂谷 佳明氏の社外取締役としての適格性



監査等委員である
取締役（社外）
か も や よ し なる
加茂谷 佳明
主株主総会では非改選の取締役です

当社が期待すること

経営管理部門責任者としての豊富な経験や業界団体の要職を務めた経験に基づく医薬品行政への高い見識を活かして、独立した立場から取締役会の適切な意思決定に対する助言や実効性の高い監査・監督を行っていただくことを期待し、社外取締役として選任しております。

独立性

加茂谷氏は2020年4月に当社連結子会社の取引先である塩野義製薬の顧問に就任しておりますが業務執行には携わっておりません。
当社の連結子会社と塩野義製薬との取引については、他の取引先と比べ大きく突出している状況になく、当社への影響は大きくありません。また、塩野義製薬の出身者が恒常的に当社の取締役に就任している状況にはありません。

3D社の主張

最長任期の社外取締役でありながら、ガバナンス強化特別委員会のメンバーとなっておらず、ガバナンス・コンプライアンス問題に対する無関心さが際立つ

また、前指名委員会委員長として、過去の不祥事に関する責任を追及せず、CEOの適切な取締役選任を行わなかった上、その責任から逃れようとしている

そもそも、加茂谷社外取締役は、東邦HDが株式を持ち合う企業の現役顧問であり、独立性に疑義

当社見解

① 加茂谷氏からは、監査等委員就任以降、取締役会やその他の重要な会議にて、常に社外取締役としての視点からガバナンスをはじめとする様々な指摘やアドバイスをいただいております。無関心という指摘は事実と反します。その他にも、経営トップへ会議の場で改革を推進する等、強い課題意識を持ち続けて指導をしており、当社企業価値拡大の貢献に不可欠な人物であると考えております。

② 社外取締役としての株主との対話実績は十分にあり、対話姿勢やその判断において「責任から逃れようとしている」という指摘は全くあたりません。株主を代表する社外取締役として、株主との直接の対話を通じ、積極的に当社ガバナンス強化への貢献を果たしています。

③ 独立性に記載の通り、当社連結子会社の取引先である塩野義製薬の顧問に就任している業務執行には関与しておらず、当社との取引における影響は一切ないと考えており、塩野義製薬との取引金額の多寡からしても、独立性には何ら問題はないと認識しています。

※赤色網掛けは当社による

- ①：加茂谷氏からは様々な指摘やアドバイスを受けており、ガバナンス・コンプライアンスに無関心という指摘は事実ではない
- ②：社外取締役としての株主との対話実績は十分
- ③：塩野義製薬の業務執行には関与しておらず、独立性には問題ない

当社の見解

- ①の主張は、加茂谷氏がコンプライアンス・ガバナンス問題に無関心という当社の主張に対し、反論をしていない
 - 加茂谷氏がガバナンス強化特別委員会の委員になっていない事実について、一切の説明が加えられていない
- ②の主張はその真偽に疑義がある
 - 2025年1月から2月にかけて、再三、当社から個別の面談を要請したにもかかわらず、頑なに拒絶し、集団面談のみ応諾
 - 2025年5月の枝廣CEOを含む人選について説明を求めた当社との会議には不参加
- ③の主張は推測に基づいたものであり、当社の指摘に対して実質的な説明をしていない
 - 加茂谷氏が取引先かつ、株式持合い先である会社の現役顧問を務めていることは認めている
 - それにもかかわらず、業務執行に関与していないという理由のみで取引における影響は一切ないと断定しており、推測の域を出ない
 - 推測に基づいて独立性には問題ないと主張しているものであり、当社の指摘に対する反論として不十分

小谷秀仁氏への当社の指摘に対する東邦HDの反論は、社外取締役の監督機能の形骸化を示唆しており、適格性への疑義を一層深めるものとなっております

当社の主張に関する東邦HD見解 (2025年6月4日)

■ 3D社主張に対する当社見解③（定時株主総会における議決権行使（反対推奨）について）

小谷 秀仁氏の社外取締役としての適格性



監査等委員である
取締役（社外）
こたに ひでひと
小谷 秀仁
本株主総会では非改選の取締役です

当社が期待すること

製薬・医療機器・医療IT業界における豊富な知識や企業経営者としての幅広い見識を活かして、独立した立場から取締役会の適切な意思決定に対する助言や実効性の高い監査・監督を行っていただくことを期待し、社外取締役として選任しております。

独立性

小谷秀仁氏は、当社の連結子会社の取引先であるファイザー株及びMSD株の出身者ですが、ファイザー株を退職して10年以上が経過しており、また、2015年8月にMSD株を退職しております。当社の連結子会社と同社との取引は、他取引先と比べ大きく突出している状況にない、当社への影響は大きくありません。また、同社の出身者が恒常的に当社の取締役に就任している状況にない、人的な交流も希薄であります。

3D社の主張

指名委員会委員として、昨年の不適切な枝廣氏のCEO選任プロセスに関わっており、また指名委員会委員長として、枝廣氏を引き続きCEOとする不適切な意思決定を行った責任を有している

当社見解

小谷氏は、製薬・医療機器・医療IT業界における豊富な知識や企業経営者として幅広い見識を有しており、当社の指名報酬委員会委員及び委員長として、当社ガバナンスの強化に貢献しております。昨年、前代表取締役CEOであった枝廣氏が健康上の理由で急遽代表取締役CEOの職を辞することとなり、枝廣氏のCEO選任プロセスに関しても、CEO不在を避けるために緊急を要する中で、当時の当社社内規程に則った対応を行っており、問題はないものです。また、本株主総会に、枝廣氏のCEO再任という指名報酬委員会の判断についても、CEO再任後の実績を踏まえての判断であり、3D社が指摘するような不適切な意思決定には全くあたりません。

※赤色網掛けは当社による

- ①： 昨年の枝廣氏のCEO選任プロセスは、社内規程に則った対応であるから問題はない
- ②： 指名報酬委員会による枝廣氏のCEO再任の判断は、CEO就任後の実績を考慮したものであるから問題はない

当社の見解

- ①の主張は、むしろ社外取締役の監督機能に疑義を生じさせる
 - 東邦HDは「社内規程に則った対応だったので問題はない」との説明により、小谷氏は指名委員会としての責任を果たしていると主張
 - しかし、むしろ上記の説明は、社外取締役としての監督責任を形式的に履行するのみで、実質的には監督責任を果たしていないことを伺わせ、社外取締役が果たすべき監督機能の形骸化を示唆するもの
- ②の主張も社外取締役の監督機能の形骸化を示唆
 - 枝廣氏の2024年6月（CEO就任時）以降の主な経営に関する行動は、経営課題の先送りを明示した中期経営計画の発表のみ
 - 当該経営計画の内容をもって同氏の実績をCEO再任の理由に値すると評価したのであれば、それ自体が取締役会の経営監督機能が十分に機能していないことの証左であり、小谷氏が指名委員会委員長として不適当であることを示している

免責事項

免責事項

このプレゼンテーション資料及びこのプレゼンテーション資料に含まれている情報（以下総称して「本プレゼンテーション」）は、東邦ホールディングス株式会社（以下「東邦HD」）の株主のために提供されるものです。3D Investment Partners Pte Ltd.は、東邦HDの株式を保有するファンド（以下「3Dファンズ」）の資産運用会社です。

本プレゼンテーションでは、東邦HDの事業、資本構成、取締役会、ガバナンス体制に限定した、3D Investment Partners Pte Ltd.及びその関連会社並びにそれらの関係者（以下総称して「3DIP」）の評価、推定及び意見を示しています。3D Investment Partners Pte Ltd.は、3Dファンズの資産運用会社としての立場からのみ、評価、推定及び意見を示しています。

本プレゼンテーションは、東邦HDの株主総会における取締役選任議案又は他の議案に関する議決権の行使又はその他の行為について、3DIPと共同で株主の権利（議決権を含みますが、これに限りません。）を行使することを勧誘又は要請するものではありません。3DIPは、自らの評価、推定及び意見を表明する行為又は本プレゼンテーションにおいて若しくは本プレゼンテーションを通じて行う他の株主との対話により、日本法（又はその他の適用がある法律）に基づき、共同保有者・特別関係者・密接関係者として取り扱われる意図又は合意がないことを明確にします。

3DIPは、東邦HDの株主が保有する議決権の行使につき、東邦HDの株主を代理する権限を受任する意思はありません。

3DIPは、東邦HD及び東邦HDグループ会社の事業や資産を第三者に譲渡又は廃止することについて、3DIPが、自ら又は他の東邦HDの株主を通じて、東邦HDの株主総会で提案することを意図するものではありません。また、3DIPは、東邦HD及び東邦HDグループ会社の事業の継続的かつ安定的な実施を困難にする行為を行うことを目的とする意思を有していません。

本プレゼンテーションは、いかなる取引、サービス若しくは商品の提案、勧誘若しくはマーケティング、広告、誘因又は表明ではなく、投資商品若しくはいかなる種類の投資の売買の助言若しくは投資商品を購入し若しくは売却すること、何らかの投資を行うこと、何らかの取引を実行すること若しくは（条件が記載されているか否かを問わず）その他の行為を避けるべきことを推奨するものではなく、また、いかなる特定の投資若しくは投資戦略のメリットなどに関する意見でもありません。戦略や取引のいかなる事例も、単に説明を目的としたものであり、過去又は将来の戦略や実績を示すものではなく、特定の戦略の成功可能性を示すものでもありません。

本プレゼンテーションは、情報提供のみを目的としたものであり、その他のいかなる目的のためにも、いかなる人にも依拠することはできません。また、本プレゼンテーションは、取引、投資、財務、法律、税務その他のいかなる助言、提案若しくは招請でもありません。

本プレゼンテーションは、3DIPが独自に収集した情報及び公表されている情報（いずれも3DIPは別途の検証を行っていません。）に基づき作成されたものであり、完全性、適時性又は包括性のあるものではありません。3DIPは、日本の金融商品取引法が規定するインサイダー情報（以下「インサイダー情報」）を受領しておらず、また、本プレゼンテーションにはいかなるインサイダー情報も記載していません。

本プレゼンテーションには「将来の見通しに関する記述」が含まれています。特定の将来の見通しに関する記述は、過去又は現在の事実と厳密には関連していない記述であり、「かもしれない」、「でしょう」、「想定します」、「信じます」、「予想します」、「計画します」、「推定します」、「見込んでいます」、「目標とします」、「予想します」、「求めています」、「し得ます」といった表現やこれらと同等の用語を用いたその他の変換形、否定形、類似表現の一切を含んでいます。

同様に、3DIPの目的、計画、事業戦略、目標などを記載した記述は、将来を見据えたものです。本プレゼンテーションに記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、3DIPが本プレゼンテーションの作成時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいた、3DIPの意図、認識、期待、推定、仮定及び評価に基づいています。これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスク、不確実性、仮定その他予測することが困難な要素を含んでおり、3DIPのコントロールの範囲内ではなく、実際の業績と大きく異なる可能性があります。したがって、実際の業績などがこれらの業績見通しとは大きく異なる結果となり得ます。そのため、実際の結果を予測するものとして将来に関する記述に依拠するべきではなく、実際の結果は将来に関する記述として記載され、又は示唆されたものと大きく異なる可能性があります。3DIPは、新たな情報、将来の展開その他の結果にかかわらず、将来の予想に関する記述を更新して公表したり、修正する義務を負いません。

免責事項

3DIPは、本プレゼンテーションに記載された情報が正確で信頼できるものであると信じていますが、3DIPは、当該情報や記載されている東邦HDグループ及びその他の企業に関する記述、口頭でのコミュニケーションについての正確性、完全性又は信頼性について何らの表明又は保証を行うものではありません。また、3DIPは、これらの記述やコミュニケーション（それについての不正確性や欠落も含みます。）についてのいかなる責任を負うものではありません。なお、公開会社については、公開会社又はその内部者が保有する非公開情報のうち、当該公開会社が公開していない情報が存在する場合があります。したがって、本プレゼンテーションに記載されている全ての情報は、何らかの保証をするものではなく、「現状のまま」で表示されており、3DIPはその情報の正確性、完全性又は適時性や、使用した結果について何らの表明も暗示的に行うものではありません。自ら専門家の助言を得て、関連する問題に関して自ら評価を行ってください。3DIPは、本プレゼンテーションに含まれる情報（それについての不正確性や欠落も含みます。）の全部若しくは一部の使用やそれに関連して発生したいかなる損失に対しても、いかなる義務又は責任も負いません。いかなる投資も、完全な資本の喪失を含む重大なリスクを伴います。いかなる予測や見積もりも、単に説明を目的としたものであり、想定される損益の上限を示したものとして捉えるべきではありません。3DIPは、いかなる人に通知することなく、本プレゼンテーションの全部又は一部を変更することができますが、本プレゼンテーションにおける修正、更新、追加情報若しくは資料を提供する義務、又は不正確を訂正する義務は負いません。

本プレゼンテーションには、ニュース報道又はその他の公開の第三者情報源（「第三者資料」）からのコンテンツ若しくは引用、又はそれらへのハイパーリンクが含まれ得ます。本プレゼンテーションにおける第三者資料の引用の許可は、求められておらず、取得されていないことがあります。なお、第三者資料の内容については、3DIPが独自に検証を行ったものではなく、必ずしも3DIPの見解を示すものではありません。第三者資料の著者及び／又は発行者は、3DIPとは独立しており、異なる見解を持つ可能性があります。本プレゼンテーションに第三者資料を提供することは、3DIPが第三者資料の内容の一部について支持若しくは同意すること、又は第三者資料の著者若しくは発行者が、関連する事項に関して3DIPが表明した見解を支持若しくは同意することを意味するものではありません。第三者資料は、記載された問題に関して他の第三者により表明された関連するニュース報道又は見解の全てでもありません。

本プレゼンテーションの英語版に記載される（他の者に帰属しない）3DIPが作成した情報で、英語版と本プレゼンテーションの日本語版とが一致しない場合、別途の明示がない限り、日本語版の意味が優先されます。

3DIPは、現在、東邦HDグループの有価証券を実質的に保有し、及び／又は経済的利害関係を有しており、将来においても保有し、または経済的利害関係を有する可能性があります。3DIPは、東邦HDグループに対する投資について、継続的に、また、様々な要因に応じて、東邦HDグループの財政状態及び戦略的方向性、東邦HDとの協議の結果、全体的な市場環境、3DIPが利用可能なその他の投資機会、東邦HDグループの有価証券の購入又は売却を希望する価格で実行する可能性など、いつでも（3DIPがポジションを得た後の公開市場又は非公開の取引を含みます。）、売買、カバー、ヘッジ、又は投資の形態や実体（東邦HDの有価証券を含みます。）を、関係法令で許容されるいかなる方法によっても、変更する可能性があり、また、そのような変更について他者に通知する義務を明示的に負うものではありません。また、3DIPは、東邦HDに対する投資に関して適当と判断するいかなる行動も取る権利を留保します。この行動は、取締役会、経営陣又は他の投資家とのコミュニケーションを含みますが、これに限られません。

本プレゼンテーション及びその内容は3DIPの著作物です。本プレゼンテーションで言及されるすべての登録された又は登録されていないサービスマーク、商標及び商号は、それぞれの所有者の財産であり、3DIPによる本プレゼンテーションの使用は、これらのサービスマーク、商標及び商号の所有者との提携又は所有者による承認を意味するものではありません。いかなる場合においても、3DIPは、本プレゼンテーションの使用から生じる、直接的又は間接的な特別損害、付随的損害又は派生的損害（逸失利益を含みます。）について、いかなる当事者に対しても責任を負わないものとします。

本プレゼンテーションに記載された内容は、予告なく変更・更新されることがありますので、ご注意ください。本プレゼンテーションを読むたびに全ての内容をご確認ください。